

2011年度(平成23年度)学校評価自己評価表

最終更新日	2011年(平成23年)4月20日
-------	-------------------

校番 54	福山市立野々浜小学校
-------	------------

1 学校教育目標

よりよく生きようと学び合う子ども
 ~ 共に輝け かしこく・うつくしく・たくましく ~

2 経営理念

(1) 地域社会における自校の使命(ミッション)

地域の宝である一人一人の児童が、関わり合いを通して基礎的・基本的な内容を確かに学びとる教育を実践し、地域・保護者に信頼される学校づくり

(2) 使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像(ビジョン)

- 1 確かな基礎学力を身につける学校・・・「子ども達が来るのが楽しい学校」
- ・進んで読み・書き・計算・家庭学習のできる子。
 - ・差異に気をつけて発言をつなぎ学べる子。
 - ・進んであいさつができる子
 - ・規律ある生活ができる子。
 - ・よく遊び、進んで運動する子。
- 2 開かれた学校・・・「保護者が子どもを通わせたい学校」
- ・校内の取組みが教職員で共有化できる学校。(内に開く)
 - ・情報公開を通して家庭・地域との連携・啓発ができる学校。(外に開く)
- 3 人材の育つ学校・・・「教職員がやりがいの持てる学校」
- ・不易と流行を考え、専門的な知識と授業力向上のため学び続ける教職員。
 - ・協働して組織的動きができる教職員。
 - ・公務員として、社会人としての自覚と実践力がある教職員。

3 自校の現状分析

CRTの結果、国語・算数の平均点が75.1点で標準達成率との開きが-0.9点ある。昨年より3.5点向上した。課題は、国語「読む」「言語」の2領域、算数「知識・理解」以外の3領域。スキルタイムによる繰り返し学習の充実。
 基礎・基本の確実な習得と活用力を高める授業づくり。
 「あいさつ」は、達成率(児童自己評価)が平均90%と5%ダウン。
 ステップアップカードにより自己指導力・規範意識の向上を図る。
 新体力テストの県平均に到達した項目は、61.5%で9.4%アップした。
 課題種目(クラス・全校)を入れた、体幹を鍛えるセット運動に取り組む。
 分掌は、教職員にマネジメントサイクルに従い課題の改善策まで示す力がついた。
 教職員の進行管理能力と各主任の指導力の向上を図る。

4 研究主題

(1) 研究主題

心をひらき 共に考え よりよく生きようと学び合う児童の育成
 ~ 学習プログラムの工夫と資料開発を通して ~

(2) 研究指定

指 定	事 業 名 等	期 間
市	教育研究支援事業(道徳)	平成22年~平成24年

5 今年度の重点目標と設定理由

重点目標	設定理由
基礎・基本の習得	・漢字と計算力の定着率アップとCRTの平均点を3点向上。
道徳的実践力の向上 体力の向上	・規範意識、自己指導力の向上。 ・課題を克服するセット運動の工夫。
効率的な学校運営	・具体的な評価改善案と進行管理能力を教職員に育成。

6 評価基準

評価・指標評価	基 準	
A・a	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた
B・b	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた
C・c	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた
D・d	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった
E・e	40%未満の達成度	目標を達成できなかった

・自己評価(中間)の基準は、10月20日までの計画に対する達成状況とする。

7 目標・評価項目・指標等の設定と評価

市重点 目標	年 目	中期経営目標	重 点	分類	短期経営目標	() 評価	評価項目・指標等 (成果 取組み 成果と取組み に着目)	() 指標 評価	評価項目・指標 改善方策	短期 (中期) 経営目標の達成状況
確 か な 学 力	2	学力診断テスト (CRT) で全ク ラスが総合平均 を 100% クリ アする。		継続	「学習の深め方」が分かり、 めあてが達成できる児童を 85% 以上にする。		なかま学習の場で、自分と友達との類似点・相違点を見 つけながら学習できる児童を 85% 以上にする。			
				継承	学力診断テストの達成率を前 年度より平均 3% 向上させる。		算数・国語の月末検定で「おおむね満足」に達する児童 を 87% 以上にする。			
豊 か な 心	3	自分の心や行動 をよりよくしよ うという気持ち になった児童を 90% 以上にす る。		新規	自分をふり返り、思いや考え を深めることができた児童を 90% 以上にする。		「総合単元的な道徳学習の各内容を結びつけて児童の意 識を深めることができた」という児童・教師自己評価を 90% 以上とする。			
				新規	あいさつを高めることができ た児童を 90% 以上にする。		あいさつステップアップカードを使い、ステップアップ できたという児童自己評価を 90% 以上とする。			
な 健 体 や か	3	体力向上担当教 員を中心に体力 向上対策を 100% 実施す る。		継続	新体力テストで県平均達成率 を 60% 以上にする。		全校やクラス課題 (投力・跳力・持久力) を入れた「セ ット運動ができた」という児童自己評価を 90% 以上と する。(高学年は教師がつき指導しきる。)			
教 職 員 の 力 量 あ る	2	研修で学んだ内 容を授業改善に 活かした実施率 を 90% 以上に する。		継続	研修を活かし、授業改善できる 教員をまず 80% 以上にする。		リレー発言 (つなぎ発言) と意図的指名を生かし、コー ディネート力を高めることができたという教師自己評 価を 80% 以上にする。			

(管理規則第3条実施要領 別紙様式)

	2	「範を示すことができる」という教職員自己評価を100%にする。	新規	服務研修を活かし、危機意識を継続できたという教職員自己評価を100%にする。	体験的な服務研修を通して、自己を振り返り、危機意識を継続することができたという教職員自己評価を100%にする。	
信頼される学校	1	学校の情報発信に対する保護者・地域の満足度を80%以上にする。	継続	学校の情報発信に対する保護者の満足度を3%アップする。(昨年度75%)	教育目標に向けて努力している子どもの姿や学校の様子を載せた便りを、月2回以上発行する。	
	3	評価・改善シートを活かし、教育の質の向上が図れたという教職員の自己評価を90%以上にする。	継続	具体的な改善策が示せる教職員を90%以上にする。	各学期末(7月・12月・2月)には、具体的な改善策を示し、改善を図ったとする教職員の肯定的自己評価を90%以上にする。	